

【公共施設再編】公共施設の再配置と連携した都市機能の集約

【静岡県浜松市】

背景・課題

- ・浜松市の保有する公共施設、土地などの資産は、12市町村合併、政令指定都市移行を契機に急増。
- ・都市化の進展や人口の増加に伴い、ハコモノ資産については、1970年代、80年代の20年間で約137万平方メートル、全体の約54%が建設されている。（下図参照）
- ・今後、老朽化に対する対応や改修等を計画的に行い、更新時期の一極化を回避する必要がある。



公共施設の総量の削減を図りつつ、まちづくりの方針に沿って再編・集約を推進

- ・全公共施設について、施設ごとの課題や継続性等について整理。
- ・平成21年度から平成27年度で、全体の約22%の公共施設を削減し、年間の維持管理費を約5億円削減するなど、公共施設の見直しによる財政の効率化が図られている。
- ・また、浜松市都市計画マスタープランでは「拠点ネットワーク型都市構造」を掲げており、地域の拠点形成にあたって、既存の公共施設ストックを有効に活用するなど、公共施設再編と地域拠点の確保との連携が図られている。

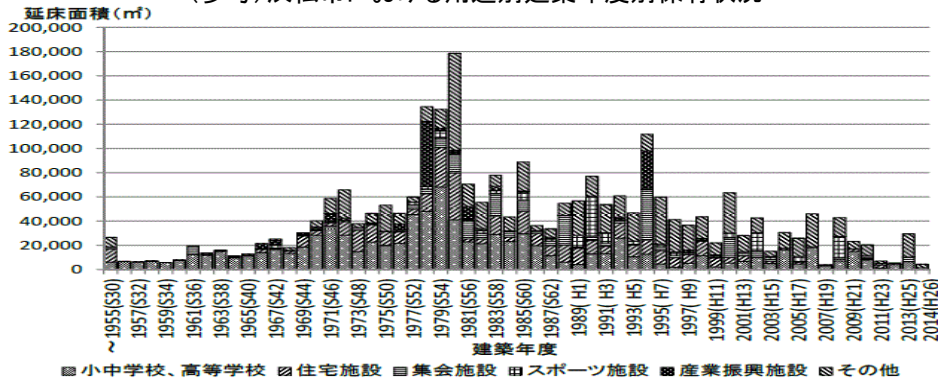
【浜松市公共施設再配置計画】

- 「浜松市資産経営推進方針」に基づき、データの一元化をした2,001施設について、施設の課題や継続性等について整理
- そのうち、H21～H27にかけて、以下のとおり公共施設の削減を推進

439施設（延べ床面積で約22万㎡）を削減

⇒ 年間維持管理経費	△約5億円
⇒ 50年間の更新・改修経費	△約1,100億円

（参考）浜松市における用途別建築年度別保有状況



【浜松市都市計画マスタープラン】

【旧引佐町役場庁舎】
行政支所機能を集約し、空きスペースを地域遺産センターとして活用

【浜北駅前の市有地】
再開発ビルに、区役所、図書館、ホール等の複合施設を整備

【旧雄踏町役場庁舎】
外国人学習支援センター・外国人学校に転用